

アメリカ 環境開発実習（アラスカ実習）

学生氏名	森山 陽太さん
所属学部	都市経営学部 都市経営学科
参加年次	2年次
滞在期間	2025年7月5日～20日
滞在方法	アラスカ大学フェアバンクス校の学生寮



アラスカでの学び

○ はじめに

2025年の7月の約2週間、アラスカで実施される環境開発実習に参加した。大学が提携を結んでいるアラスカ大学フェアバンクス校で英語の授業やアラスカの自然、先住民、文化などの講義を受け、休日には様々なアクティビティを体験した。ここではアラスカでの2週間で学んだことを3つにまとめたい。

○ 1つ目 日本では経験できない自然や文化

アラスカと聞いてまず私が思い浮かべるのは「とにかく大自然」である。まさにその通りで、空港を出た瞬間の空気や大学構内のうっそうとした木々、池やたくさんの蚊などまさに大自然を肌で感じることができた。また、特に到着してからの数日間は山火事の影響で空気がとてもスモーキーであったが、その一方で澄んだ空気も堪能できた。

アラスカは野生動物の宝庫である。週末には北米最高峰のデナリ（マッキンリー山）を含むデナリ国立公園でのバスツアーに参加した。往路ではほとんど動物を見ることができず諦めかけていたが、途中で雨が降り出した。その影響もあってか、復路では様々な野生動物を見ることができた。テレビや写真でしか見たことのなかったグリズリーベアーは遠く





にいたため鮮明な写真にはおさめることはできなかったものの、その迫力に圧倒された。カリブーも生で初めて見る事ができた。そして中でも印象的だったのはムースである。バスのすぐ横を通り過ぎ、手を伸ばせば届きそうな距離に現れた瞬間の興奮は、今でも忘れられない。その颯爽とした姿に心を奪われ、今回の実習の中でもベストショットといえる写真を撮ることができた。

文化面でも多くの学びがあった。チップ文化はアメリカでは一般的であり、私にとっては初めての経験だった。店員のサービスに対して追加で支払いをするもので、料金に対する割合にもいくつかのパターンがあることを知った。実際にダウンタウン散策の際に体験することができ、異文化を受け入れることの大切さを改めて実感した。

○ 2つ目 アラスカの人々のあたたかさ

アラスカの人々は優しいと渡航前から聞いていたが、実際には想像を超えるほど親切であたたかい人ばかりだった。ここでは2つのエピソードを紹介したい。

まず、スーパーマーケットでの出来事である。何度か訪れたアラスカのスーパーマーケットは非常に広く、どこに何があるのか分からなかった。友人へのお土産を買うため、思い切って店員におすすめを尋ねた。すると、私の拙い英語をくみ取ってくれ、さまざまなお土産を提案してくれた。さらに、どこから来たのか、どのような目的で来たのかといった会話の中で、日本人が好みそうな商品を調べて教えてくれたり、一緒に探してくれたりした。どの店員も終始笑顔であたたかく対応してくださり、とても感動した。



次に、バスでの出来事である。隣に座っていた年配の女性に話しかけられた。最初は内容を理解するのが難しかったため、英語が苦手であることを伝えると、ゆっくりはっきりと話してくれた。彼女は学校の図書館司書として長年働いていたそうで、その経験について話してくれた。また、私も日本について紹介し、会話が弾んだ。短い時間ではあったが、現地の人々のあたたかさを強く感じた出来事であった。

○ 3つ目 自分自身の成長

渡航前に2つの目標を立てた。現地の人と話すときは絶対に翻訳機を使わないこと、そして少しでも気になったことは必ず質問することである。この2つを意識することで、2週間の中で自分自身の成長を感じることができた。

白夜や米の少ない食生活など、慣れない環境に加え、参加者の中で自分だけが2年生であったこともあり、当初は不安が大きかった。しかし、この2つの目標を軸に、実習メンバーと積極的にコミュニケーションを取ったり、現地の方々と多く会話したり、分からないことを質問したりすることで、充実した日々を過ごすことができた。

また、自分の価値観を見つめ直すきっかけにもなり、日本にいただけでは気づくことのできなかつた視点を獲得することができた。この経験は今後の人生において大きな財産になると感じている。



○ 最後に

今回のアラスカ実習を通して得た経験は、どれもかけがえのないものである。この経験をたくさんの人に伝えていくことが私の役割だと考えている。海外に行くことは、不安や戸惑いも伴うが、それ以上に大きな学びと成長をもたらしてくれる。大学生の今だからこそ、機会があるならぜひ一歩踏み出し、海外に行くことを強くおすすめしたい。

最後になりましたが、環境開発実習に携わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

